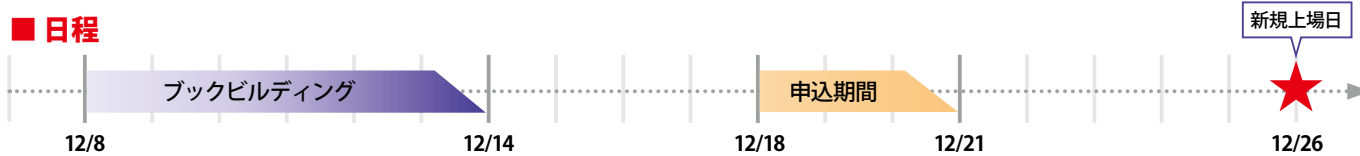


IPO銘柄 オプティマスグループ (9268・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
9628	100株	公募: 27.06万株 売出: 134.06万株 (OA24.16万株)	1,710円~1,800円 (8.5倍)	野村証券



ニュージーランドを中心に中古車輸出を展開

■ 事業内容

ニュージーランドを中心に中古車輸出を手掛ける。事業は貿易、物流、サービス、検査に大別され、貿易では日本のオートオークション事業者から中古車を仕入れ、海外の現地ディーラーへ販売。物流では現地子会社を通じて非船舶物流を行う。グループ内で物流事業をワンストップで行うことで現地ディーラーの手間を省き、営業コストも削減している。一定数の自動車を輸送していることから、船荷スペースの仕入れ先である海運会社に対して交渉力を有している。サービスでは現地ディーラーに対する債権回収補助業務や一般消費者向け自動車ローン事業を展開。検査では中古車輸出に必要な検査業務を行う他、グループ外からも受託。ニュージーランドのほか、12カ国でサービスを提供している。18年3月期第2四半期累計の売上高構成比は、貿易セグメントが54.4%、物流セグメントが16%、サービスセグメントが16.9%、検査セグメントが12.8%となっている。

■ 特徴

主力の貿易事業では、営業担当が中古車仕入れの専門知識に基づき、個別車両の商品性の判断を行い、顧客の嗜好を加味したコンサルティング営業を行っている。各セグメント間で顧客の共有、囲い込み、情報共有、効率的なグループファイナンスを進めることで事業シナジー（相乗）を強化。有力現地ディーラーとの提携関係強化を進め、保険など最終消費者向けビジネスの足掛かりを構築している。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年3月期の連結経常利益は前期比12.8%減の16億9,600万円を計画している。ニュージーランドドル安の影響が出たほか、販売数の減少と販売単価の下落で主力の貿易セグメントが厳しい。物流セグメントでも輸送台数の減少と為替の影響を受けている。

■ 定性分析

中古車輸出業自体は既上場類似企業もあり、特段の目新しさがある業態ではない。足元の業績は苦戦しているが、周辺事業への進出とオーストラリア、イギリスなどへの地域拡大で成長力を高めていくとみられ、中期的な成長余力はありそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は33億円程度となる見込み。初値買いの入りづらい東証2部への上場案件で、市場からの吸収金額には荷もたれ感がある。年内最後のIPO案件であり、同日上場案件もないため、投資家の関心が集まりやすく面はある。（小泉健太）

■ 類似企業

オプティマスグループ(9268・東証2部)	予想PER8.5倍 (仮条件上限)
トラスト (3347・東証2部)	予想PER19.0倍
アップルインターナショナル (2788・東証2部)	予想PER7.1倍

■ 引受証券

野村証券、みずほ証券、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、SMBC 日興証券、SBI証券、いちよし証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年3月期(実績)	30,420	—	1,433	—	921	—	186.0	—
17年3月期(実績)	27,092	▲10.9	1,944	35.7	1,367	48.4	272.3	—
18年3月期(会社予想)	25,672	▲5.2	1,696	▲12.8	1,078	▲21.1	211.6	未定

※ 16年3月期より連結決算
※ 17年7月に株式分割(1株→5株)を実施。16年3月期と17年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年3月期	1,004,505	17,443	7,120	157	1,412.3	40.7	13.5
17年3月期	1,004,505	18,890	8,248	157	1,642.4	43.7	17.8

※ 16年3月期と17年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	山中 信哉	2,204,190	40.73
2	デモン・スコット・ジャクソン	911,460	16.84
3	ロバート・アンドリュー・ヤング	882,830	16.31
3	マーティン・フレイザー・マッカラク	882,830	16.31
5	ピーター・ケネス・ジョンストン	72,215	1.33
6	福村 康一	59,920	1.11
6	笠原 義隆	59,920	1.11
6	篠原 正裕	59,920	1.11
6	吉田 浩	59,920	1.11
10	山中 玲子	34,500	0.64
10	ジャクソン 美千代	34,500	0.64

経営陣

役職	氏名
取締役社長(代表取締役)	山中 信哉
取締役	荒井 正行
取締役	福村 康一
取締役	デモン・スコット・ジャクソン
取締役	ロバート・アンドリュー・ヤング
取締役	マーティン・フレイザー・マッカラク
取締役(監査等委員)	長谷川 康司
取締役(監査等委員)	笠原 義隆
取締役(監査等委員)	福田 富昭
取締役(監査等委員)	鈴木 義信
取締役(監査等委員)	縄野 克彦

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。